

府立木津川運動公園（北側区域）の基本計画
（パブリックコメント素案）

令和2年9月
京都府建設交通部都市計画課

はじめに

府立木津川運動公園は、2002（平成14）年サッカーワールドカップが開催できる運動公園として平成7年度に都市計画決定しましたが、日韓合同開催等の関係もあり会場候補地から落選しました。その後、整備計画の見直しを行うため、平成15年6月に有識者や地元関係者等による「木津川右岸運動公園（仮称）整備計画策定委員会」を設置し、平成16年3月に上記委員会からの提言を受け、現計画を策定しました。

これまで、本公園の南側区域では、山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園を目指して府民参画による森づくりを進めるとともに、子供から高齢者までが幅広く利用できるレクリエーションの場として、大芝生広場、ファミリー広場、ちびっこ広場等を整備、平成26年3月に10.9haを供用し、残る2.5haについても令和2年度内の完成供用を目指して整備を進めているところです。

本公園北側区域では、新名神高速道路等の広域的な道路ネットワークの整備や大型商業施設の立地といった状況の変化を踏まえ、南側区域と一体となって東部丘陵地区及び山城地域の玄関口として、魅力溢れる都市公園を目指す必要があります。

また、子育て世代が住みやすい生活環境づくり、健康長寿社会の実現等を推進するため、本公園においても周辺の都市公園との機能分担や相乗効果を図りつつ、地域のニーズを踏まえた新たな利活用に対応する必要があります。

令和2年のコロナ禍においては、多くの人々が身近な公園に訪れ、改めて公園の必要性が認識されたところです。一方で、WITH・POSTコロナ社会における生活様式の変化や、これまで取組がなされているSDGsの達成、障害の有無によって分け隔てられることのない共生社会の実現、働き方改革等の公園を取り巻く様々な都市課題に的確に対応しつつ、多くの人に親しまれ賑わう公園を目指す必要があります。

以上のことから、木津川運動公園の北側区域については、令和元年10月に「木津川運動公園（北側区域）の見直しに係る懇話会」を設立し、平成16年3月の整備計画策定委員会の提言を踏まえつつ、周辺環境の変化や時代のニーズに柔軟に対応し、多くの人々から親しまれ賑わう空間を創出するため、新しい計画に見直しを行なうものです。

目 次

I 現状と課題	1
1 計画地及び周辺の概要	1
2 現在の基本計画	2
3 周辺状況等の変化	3
II 北側区域の新たな整備方針	4
1 方向性の整理	4
(1) 周辺地域の人口構造を踏まえた方向性	4
(2) 子育て支援に関する方向性	7
(3) 健康長寿・健康づくりに関する方向性	7
(4) 共生社会の実現に関する方向性	9
(5) 周辺土地利用計画を見込んだ方向性	9
(6) 地理的優位性を活かした方向性	11
(7) 公園の需給状況を踏まえた方向性	12
(8) 城陽山砂利採取跡地の自然再生の方向性	13
(9) WITH・POST コロナ社会に求められる公園機能	14
(10) 方向性の実現化施策・ツール	15
2 北側区域の新たな整備方針	18
(1) 目指すべき姿	18
(2) 方向性	18
(3) 実現化施策・ツール	18
III 北側区域のサウンディング型市場調査及び府民アイデア募集結果	19
1 木津川運動公園（北側区域）整備事業の魅力向上に向けた サウンディング型市場調査結果について	19
2 木津川運動公園（北側区域）整備事業の魅力向上に向けた 府民アイデア募集アンケート結果について	20
IV 公園整備エリアと導入機能	21
1 整備エリア	21
2 導入機能の考え方	22
3 基本機能（必須施設）と追加機能（民間提案）の設定	22
4 北側区域及び南側区域の導入機能	23
(1) 先行整備エリア	23
(2) 将来構想エリア	26
(3) 整備済みエリア	26
5 先行整備エリアの導入機能のまとめ	27
6 基本機能配置例（参考イメージ）	28

I 現状と課題

1 計画地及び周辺の概要

木津川運動公園は、京都府南部の山城地域、木津川右岸の丘陵地西部、城陽市の市街地外辺部に位置しています。

本公園及びその東側に広がる城陽市東部丘陵地は、昭和 35 年頃から山砂利採取が開始され、現在も山砂利採取が行なわれる一方で、(一財)城陽山砂利採取地整備公社が主体となり山砂利採取跡地の埋戻し事業が日々進められています。

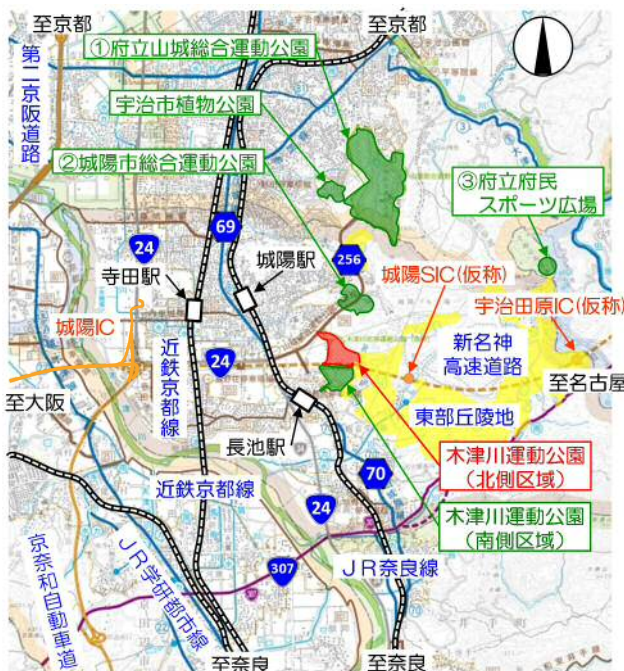
城陽市東部丘陵地は、「城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】」(城陽市、平成 28 年 5 月)等に基づき、土地利用、緑の保全及びインフラ整備が順次進められる計画となっています。

最寄り駅は JR 奈良線長池駅であり、本公園南側区域までは徒歩で 10 分程度の場所にあります。

本公園周辺には、住宅地、運動公園、植物園、サンガタウン城陽、ゴルフ場などが所在しており、緑に囲まれた運動・レクリエーション機能が集まっています。



出典：木津川運動公園ホームページ
木津川運動公園南側区域 芝生広場



※IC：インターチェンジ、SIC：スマートインターチェンジ

図 I-1 木津川運動公園の周辺状況

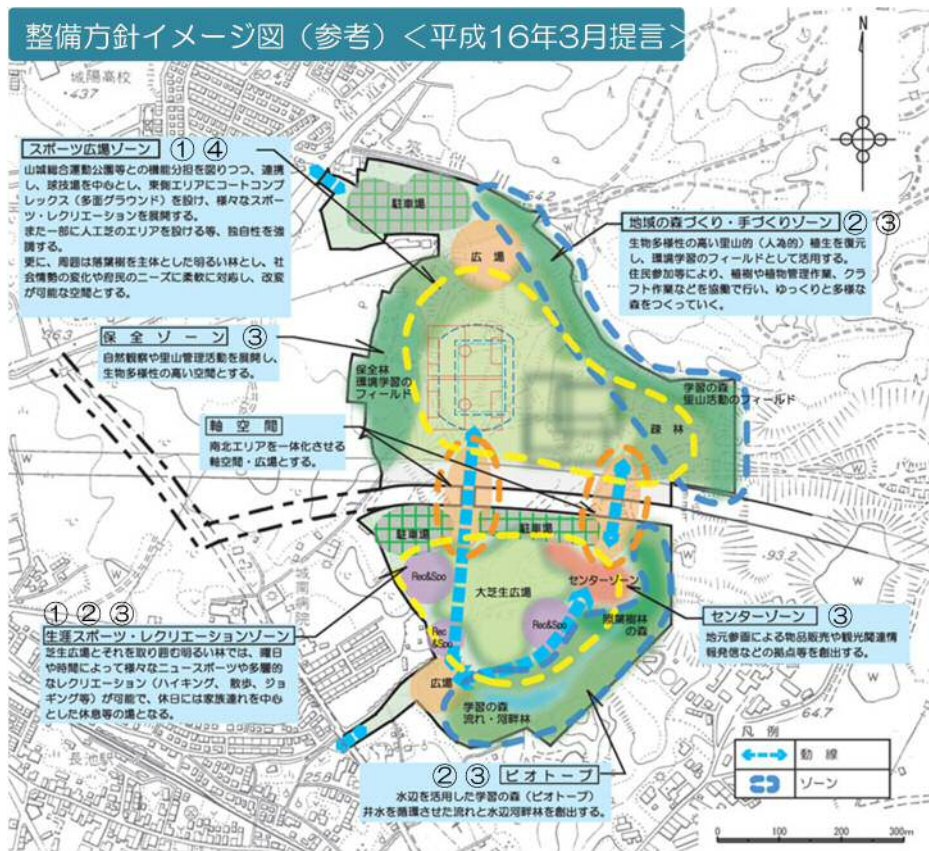
①京都府立山城総合運動公園	
所在	宇治市広野町
面積	92.3ha
施設	陸上競技場、体育館、プール、球技場、野球場、遊びの森、ふれあいの森等
②城陽市総合運動公園	
所在	城陽市寺田奥山
面積	16ha
施設	体育館、野球場、多目的広場、テニスコート等 + α：(町スタンド)キャブ場
③京都府立府民スポーツ広場	
所在	久世郡久御山町
面積	9.7ha
施設	グラウンド、自由広場

2 現在の基本計画

平成 16 年にスタジアムを中心とした計画から見直し、山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園を目指して府民参画による公園づくりを行うとともに、南側区域は大芝生広場、北側区域は大規模な芝生コートを中心に、生涯スポーツや多様なレクリエーションニーズに応え、地域の振興に寄与する公園としています。

また、本公園南側区域は「京都府地域防災計画」（京都府防災会議、令和元年 6 月）において防災活動拠点、「城陽市地域防災計画」（城陽市防災会議、令和元年 5 月）において広域避難場所及び災害時に被災者を支援するボランティアの活動拠点等として位置づけられています。

基本的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園 ● 計画から整備、管理運営まで府民参画により府民が育てる公園
空間利用の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもからお年寄りまで幅広い府民が気軽にスポーツを楽しめる公園 ② 多様なレクリエーションニーズに応え、交流の輪が広がる公園 ③ 多くの利用者で賑わい、地域の振興に寄与する魅力あふれる公園 ④ 安心・安全を確保する広域的な防災の機能を持つ公園



※①～④は「空間利用の考え方」

出典：「木津川右岸運動公園（仮称）整備計画策定に向けた提言」（木津川右岸運動公園（仮称）整備計画検討委員会、平成 16 年 3 月）

図 I-2 現計画の概要

3 周辺状況等の変化

平成 16 年 3 月の基本計画の見直し以降、本公園周辺では、新名神高速道路の建設凍結解除（平成 24 年 4 月）や城陽スマートインターチェンジ（仮称）の開設決定（平成 29 年 7 月）、国道 24 号城陽井手木津川バイパスの事業化（平成 31 年 4 月）、都市計画道路東部丘陵線を初めとする道路ネットワーク等の道路計画の進展、アウトレットモールを始め城陽市東部丘陵地における商業・流通施設の立地といった新たな土地利用計画が具体化するなど、地域情勢が大きく変化しています。

また、京都府では、「お茶の京都」構想（平成 27 年 6 月）の策定や「京都府総合計画」（令和元年 10 月）の策定等、新しい取組みを進めているところです。

着実に進む少子高齢化と人口減少、働き方改革、共生社会の実現、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の拡大など、都市課題も変化しています。また、国際連合において取組みが進められている令和 12（2030）年を目標とする SDGs（持続可能な開発目標）の達成についても、京都府の重要な目標としています。



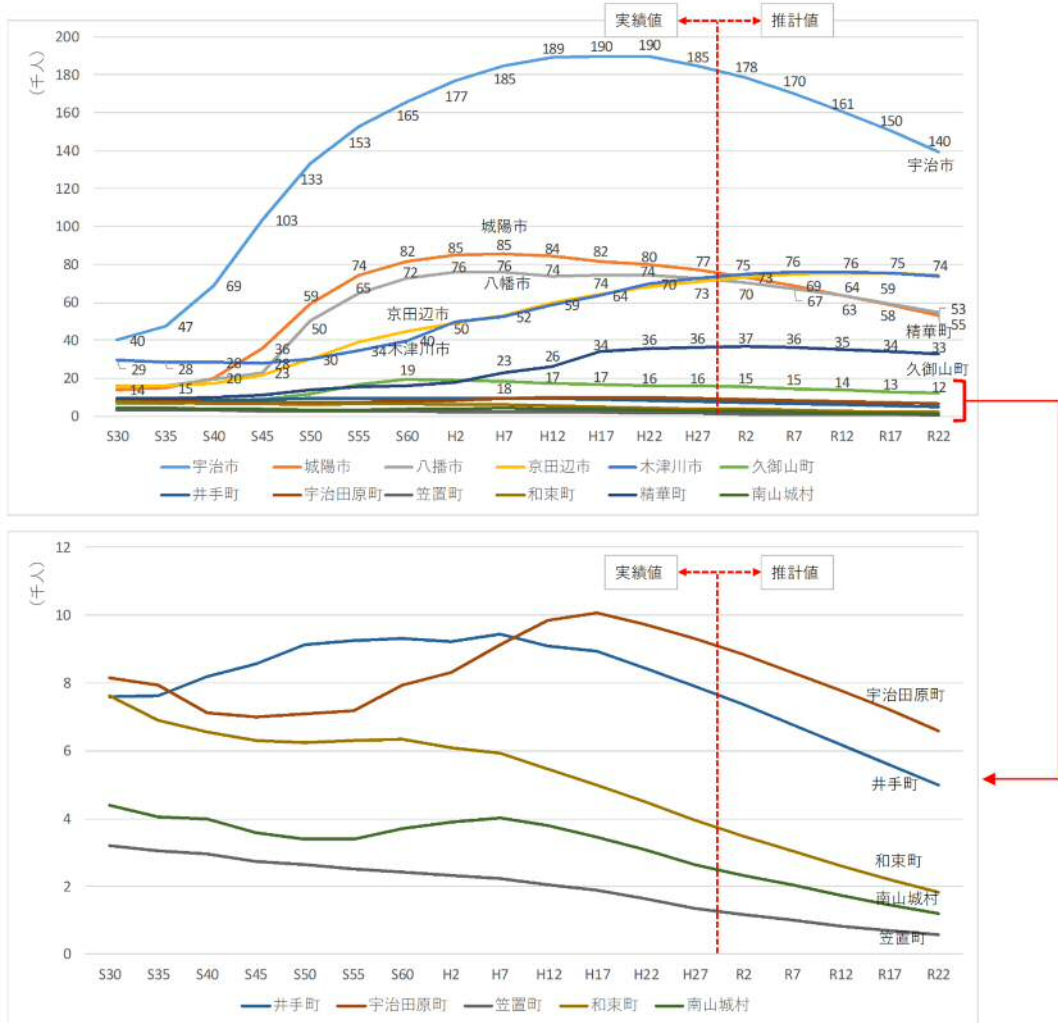
図 I-3 東部丘陵地整備関連開発動向

II 北側区域の新たな整備方針

1 方向性の整理

(1) 周辺地域の人口構造を踏まえた方向性

山城地域の人口は、北中部の城陽市、宇治市、八幡市で昭和40年代からベッドタウンとして著しく増加していますが、近年の減少が今後も続く見込みとなっています。一方で、西部の関西文化学術研究都市エリアでは、今後も増加が続く見込みとなっています。東部地域（木津川右岸地域）では、減少が続いています。

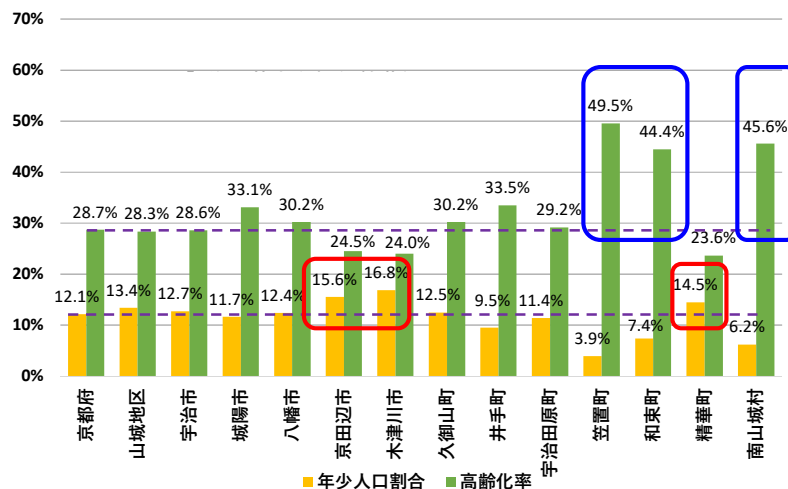


出典：実績値：「平成27年国勢調査報告」
 出典：推計値：「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所、平成30年12月25日）

図 II-1 山城地域の人口推移・推計

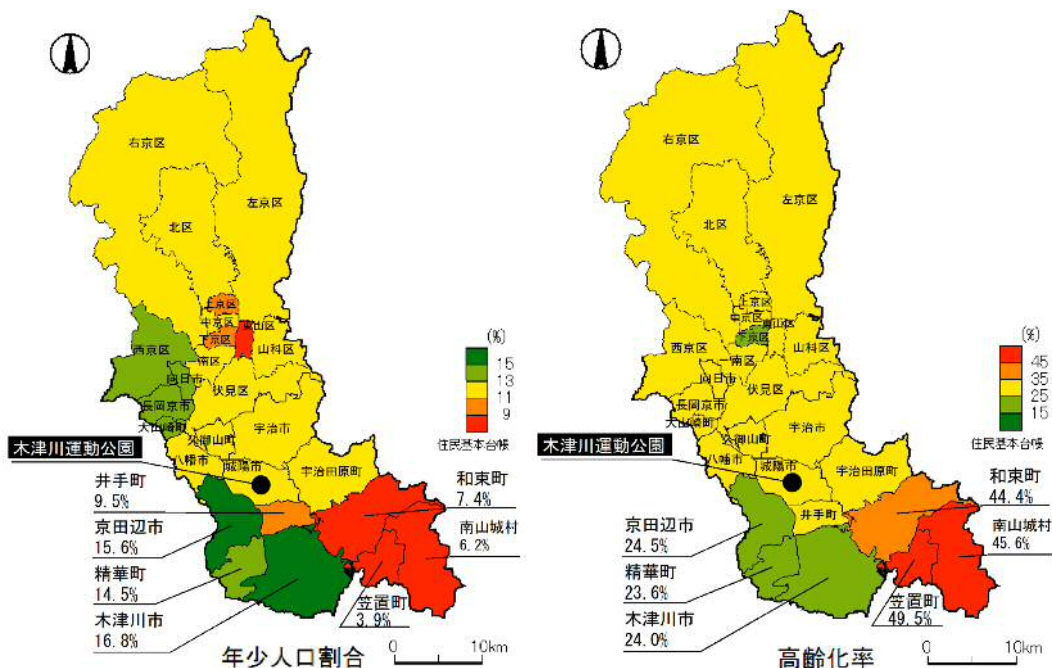
現在の山城地域の高齢化率は、城陽市 33.1%と府内平均 28.7%よりも高く、特に相楽東部地域（笠置町、和束町、南山城村）では高齢化率 50%に迫っています。一方、西部の関西文化学術研究都市エリアでは、年少人口割合が府内平均 12.1%よりも高く、子育て世代が多いことが分かります。

このように山城地域では、今後も人口増加が見込まれる西部の関西文化学術研究都市エリアと、過疎・高齢化が進む東部地域（木津川右岸地域）が併在しています。



出典：「住民基本台帳年齢階級別人口」（平成31年1月1日現在）

図 II-2 山城地域の年少人口割合・高齢化率



出典：「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所、平成30年12月25日）

図 II-3 木津川運動公園利用者の居住地域圏における年少人口割合・高齢化率

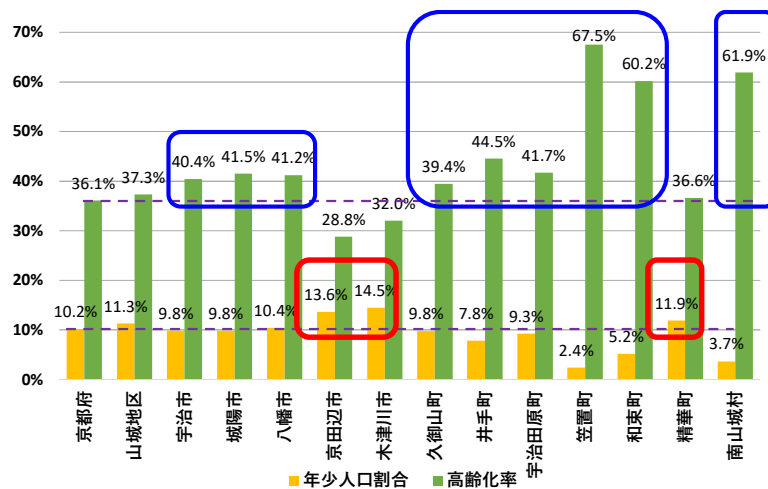
将来（令和22（2040）年）では、京都府の高齢化率が上昇しますが、特に山城地域では、早くから人口流入した北中部地域で高齢化が進行、相楽東部地域では更に高齢化が進行し、西部の関西文化学術研究都市エリアを除き、府内平均に比べて高い割合となる見込みです。

西部の関西文化学術研究都市エリアは、依然として府内全体より年少人口割合が高い状況となる見込みです。

こうしたことから、周辺地域の人口構造を踏まえた方向性を以下のとおりとします。

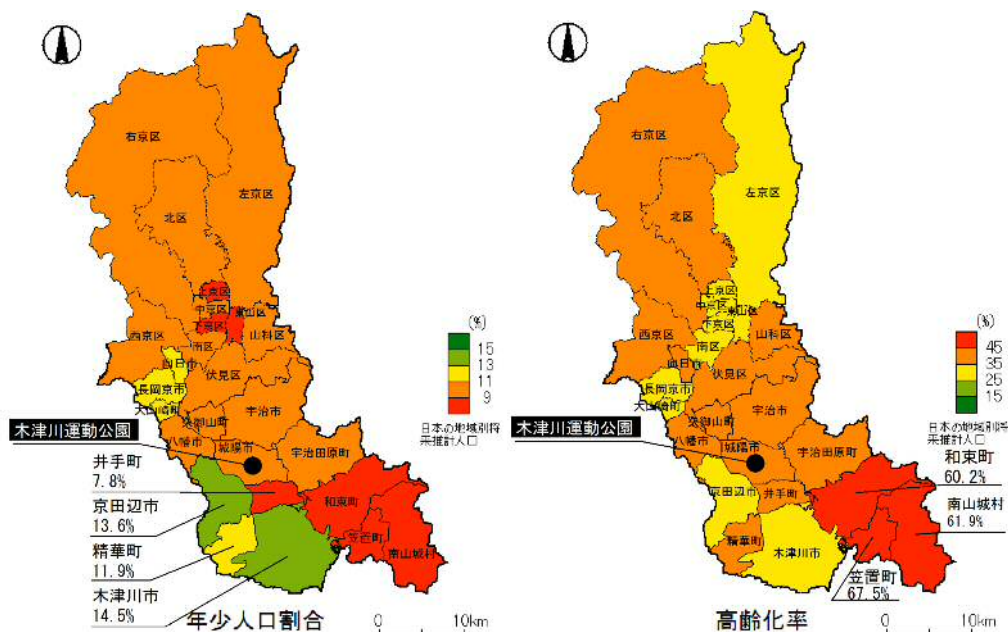
【周辺地域の人口構造を踏まえた方向性】

本公園の主たる利用圏域と考えられる山城地域の現状は、年少人口割合が高い地域と高齢化率が高い地域が併在しており、**子育て層と高齢者層の両側面に寄与**するとともに、**誰もが生涯楽しむことができる公園**を目指します。



出典：「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所、平成30年12月25日）

図 II-4 将来（2040年）山城地域の年少人口割合・高齢化率



出典：「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所、平成30年12月25日）

図 II-5 木津川運動公園利用者の居住地域圏における将来年少人口割合・高齢化率

(2) 子育て支援に関する方向性

京都府では、京都の子どもたちが健やかに育ち、夢や希望をかなえられるよう「子育て日本一」を目指しています。

「京都府子育て環境日本一推進戦略」（京都府、令和元年 9 月）において、京都府が目指す「子育て環境日本一」は、子供が社会の宝として、地域の中で温かく見守られ、健やかに育ち、子どもの生き生きとした姿と明るい声が響き渡る社会の実現としています。子どもを中心に地域の人々が集い、乳児から高齢者までの交流の輪が広がり、行政も地域も企業も一体となって子どもを見守り、みんなで支えあう子育てにやさしい京都であり、京都で子育てをしたいと思える社会です。

同推進戦略における府民調査によると「子どもの学習環境」「保育サービス」「地域の人とのつきあい」「自然環境」「就労環境」などの満足度が高いほど、「子育てしやすいまち」と実感しており、総合的に施策を進め、住みやすいまちをつくり、子育ての満足度をあげることが重要としています。また、充実を希望する子育て支援サービスとして「子どもがあそべる場や機会の提供」が 6 割近くに上っています。また、子育てについての不安や悩み、孤立を感じる親が増加しており、子供が健やかに育つ社会をつくることも必要としています。

そのため、子育てに関する方向性として以下のとおりとします。

【子育て支援に関する方向性】

まちの中にはない自然や緑の中で、様々な遊びや体験・学習を通して子どもの健やかな心身の発達を促すとともに、成長に合わせて自由な利用ができる公園を目指します。

また、子育て世代の交流や様々なサポートを通して子育てを支援するとともに、若者や高齢者との交流の輪も広げ、社会全体で子どもをあたたく見守れる公園を目指します。

(3) 健康長寿・健康づくりに関する方向性

運動習慣がある府民割合は、男性 26.7%、女性 21.0%であり、男女とも 30 歳代がそれぞれ 14.0%、6.2%と最も低い状況で、いわゆる現役世代（20～50 歳代）の男女で運動習慣が低くなっています。

府民の平均寿命は男女とも全国平均を上回っているものの、いわゆる健康寿命の平均は男女ともに全国平均を下まわっており、健康寿命の延伸対策が求められています。

また、高齢者を対象とした意識調査によると「個人又は友人と、あるいはグループで自主的に行なわれている活動に参加したい」と答えた人は約 7 割に上っています。

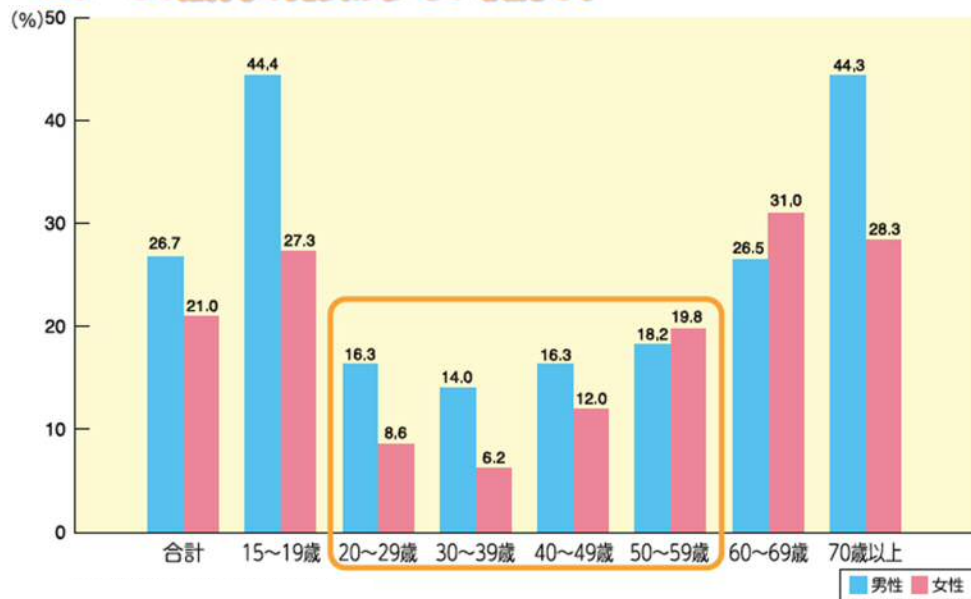
そのため、健康づくりに関する方向性として以下のとおりとします。

【健康長寿・健康づくりに関する方向性】

オープンスペースや緑の癒しの機能を活用した、誰もがいつでも気軽に運動やスポーツを楽しむことができる運動施設や、様々な活動プログラムの提供により、健康長寿・健康づくりに繋ぐことができる公園を目指します。

■ 運動習慣

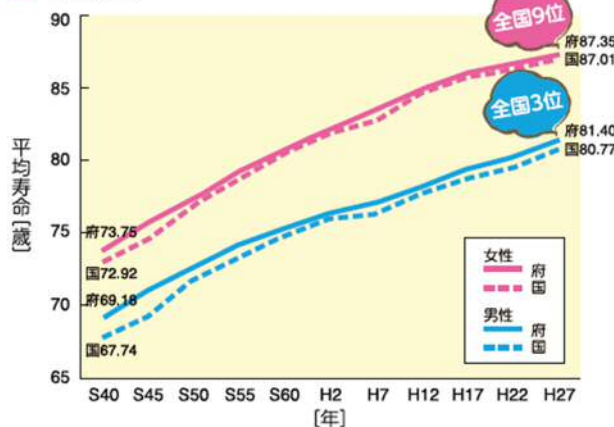
20～50歳代の男女が少ない状況です



出典：「京都府保健医療計画（きょうと健やか21（第3次）」（京都府、平成30年3月）

図 II-6 1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している府民の割合

■ 平均寿命



■ 健康寿命

全国との比較

	平均寿命 [歳] (H27)		健康寿命 [歳] (H25)	
	男性	女性	男性	女性
京都府	81.40	87.35	70.21	73.11
全国	80.77	87.01	71.19	74.21

出典：「京都府保健医療計画（きょうと健やか21（第3次）」（京都府、平成30年3月）

図 II-7 府民の平均寿命と健康寿命

(4) 共生社会の実現に関する方向性

京都府では、「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」（平成 26 年 3 月）を制定し、障害のあるなしにかかわらず、府民誰もが相互に人格と個性を尊重し合い支え合う共生社会の実現に向けた仕組みづくりを進めてきました。こうした中、新たな「第 4 期京都府障害者基本計画」（令和 2 年 3 月）を策定し、文化芸術やスポーツ等を通じた活動機会の創出や、障害を通じて学び続けられる環境の整備等を推進していくこととしています。

例えば東京都では、障がいの有無に関わらず、子ども達が安全に遊ぶことができる遊び場（遊具等）の整備が進められています。

そのため、共生社会の実現に関する方向性として以下のとおりとします。

【共生社会の実現に関する方向性】

障がいのある人もない人も、共に安心して楽しむことができる施設や活動プログラムの提供により、誰もが地域で安心して暮らせる**共生社会の実現に繋ぐことができる公園**を目指します。

(5) 周辺土地利用計画を見込んだ方向性

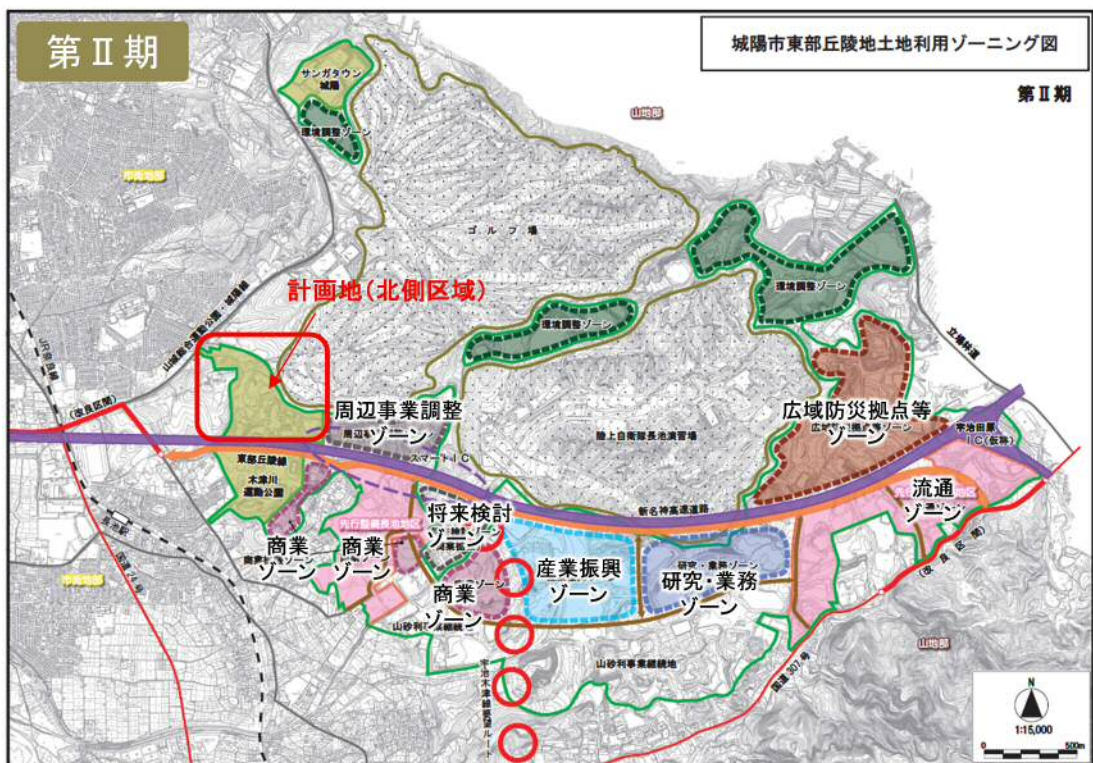
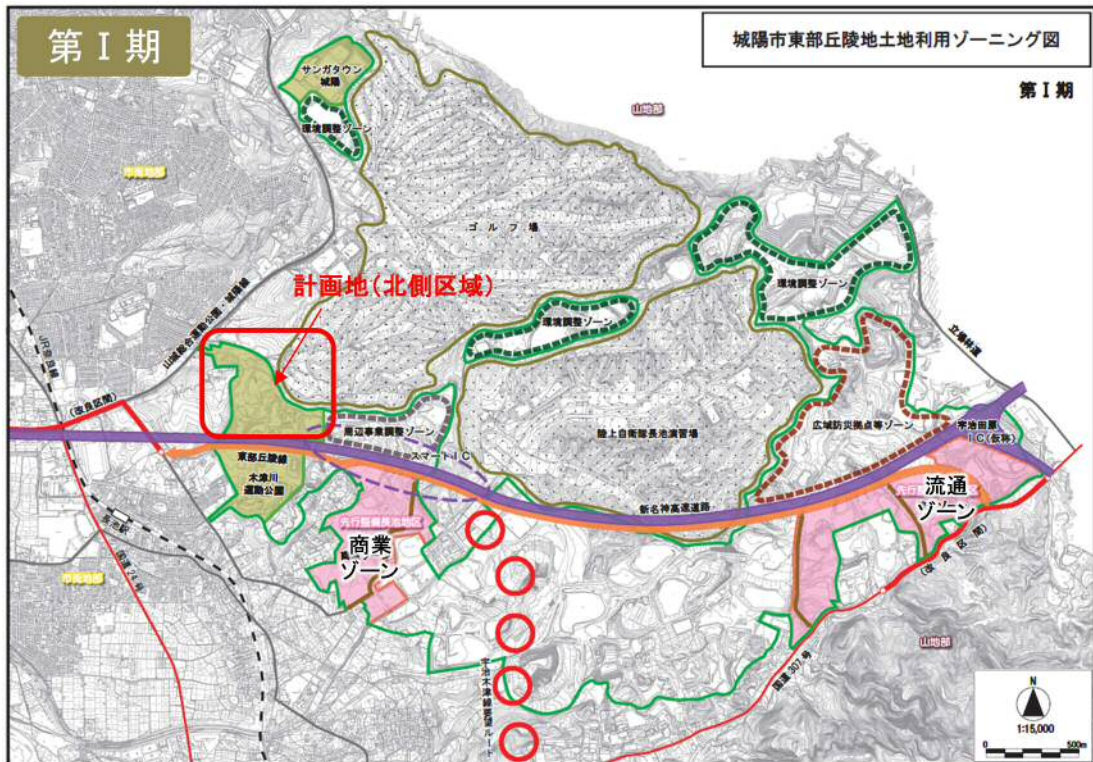
城陽市東部丘陵地は、新名神高速道路や都市計画道路東部丘陵線の供用なども踏まえ、段階的な整備が推進（「城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】」（城陽市、平成 28 年 5 月））されることとなっており、現在は第 I 期先行整備エリアの整備が進められています。また今後、国道 24 号城陽井手木津川バイパスの整備により、木津川右岸地域において新たな土地利用が進むことも予想されます。

木津川運動公園は、東部丘陵地の玄関口であり、まとまった緑やオープンスペースを有する地区となります。

こうしたことから、周辺土地利用計画を見込んだ方向性を以下のとおりとします。

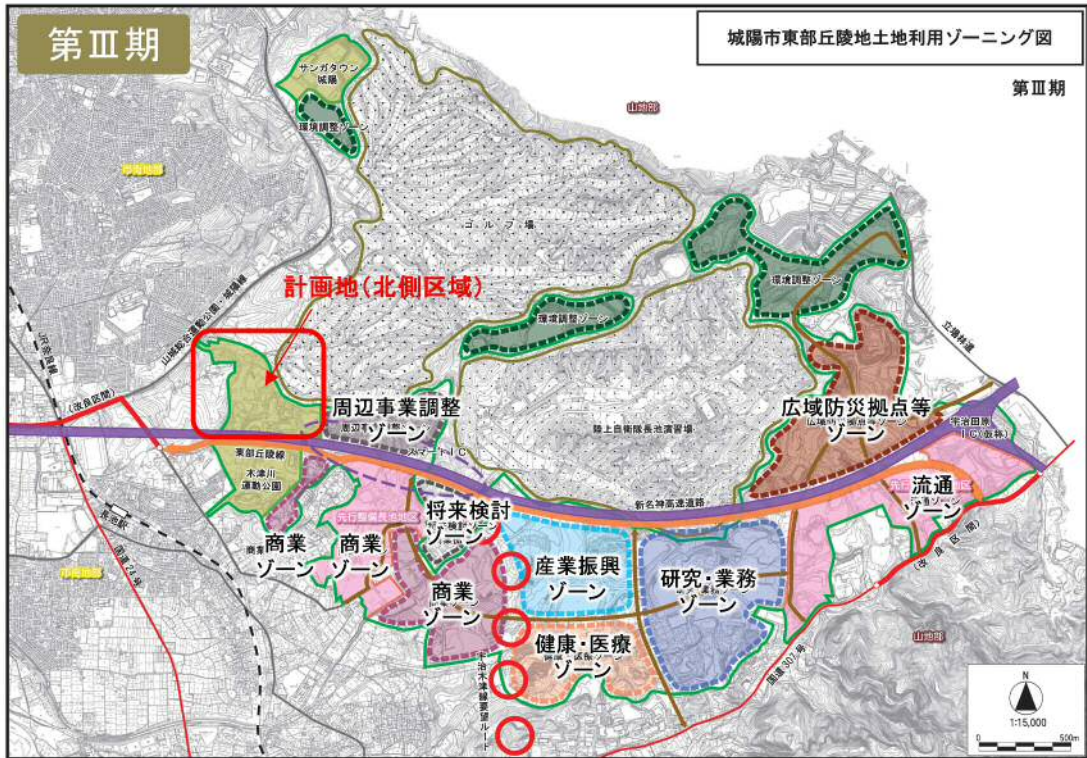
【周辺土地利用計画を見込んだ方向性】

新たなまちづくりが進められつつある東部丘陵地の玄関口として、東部丘陵地の中間エリア（センターゾーン）等の**開発状況に合わせて柔軟に対応し、民間活力を導入した利便性の高いサービス**を提供しながら、**周辺環境との連携や相乗効果**を生み出す公園を目指します。



出典：「城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】」（城陽市、平成 28 年 5 月）

図 II-8 城陽市東部丘陵地土地利用ゾーニング図 第Ⅰ期（上段）、第Ⅱ期（下段）



出典：「城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】」（城陽市、平成 28 年 5 月）

図 II-9 城陽市東部丘陵地土地利用ゾーニング図 第Ⅲ期

(6) 地理的優位性を活かした方向性

新名神高速道路やスマートインターチェンジ、周辺道路ネットワークの整備により本公園周辺の利用圏域が拡大し、アウトレットモール利用等の広域利用者の増加が見込まれています。

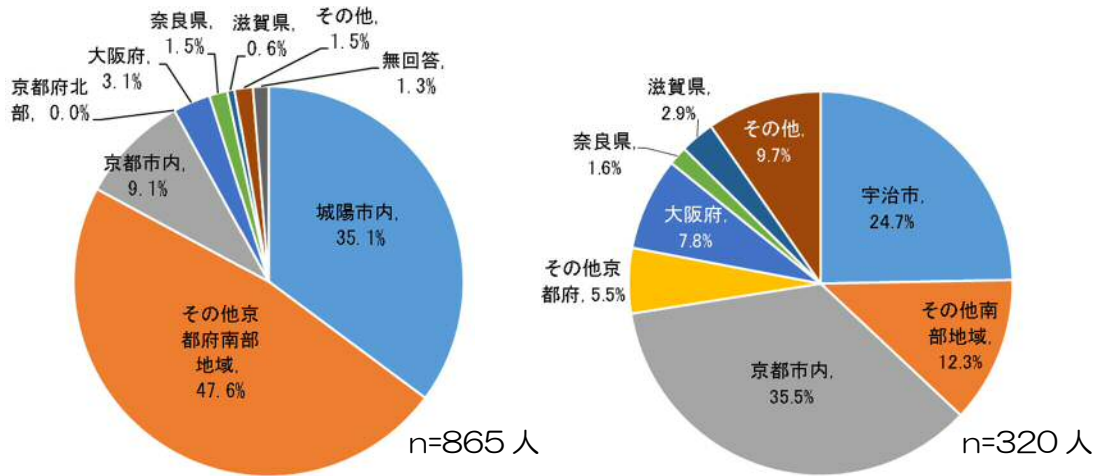
現在の木津川運動公園（南側区域）の利用者は、城陽市内が約 35%、京都府南部の山城地域を含めると 80%以上を占めています。今後は公園の魅力を高めることにより、京都府南部地域を中心とした利用者に加えて、広域利用の拡大が見込めます。

そのため、地理的優位性を活かした方向性として以下のとおりとします。

【地理的優位性を活かした方向性】

来園頻度の高い**近隣利用者のニーズを満たす**と共に、スマート IC を利用した観光やアウトレットモール利用等の**広域利用者（新たな需要）を誘引できる魅力溢れる公園**を目指します。

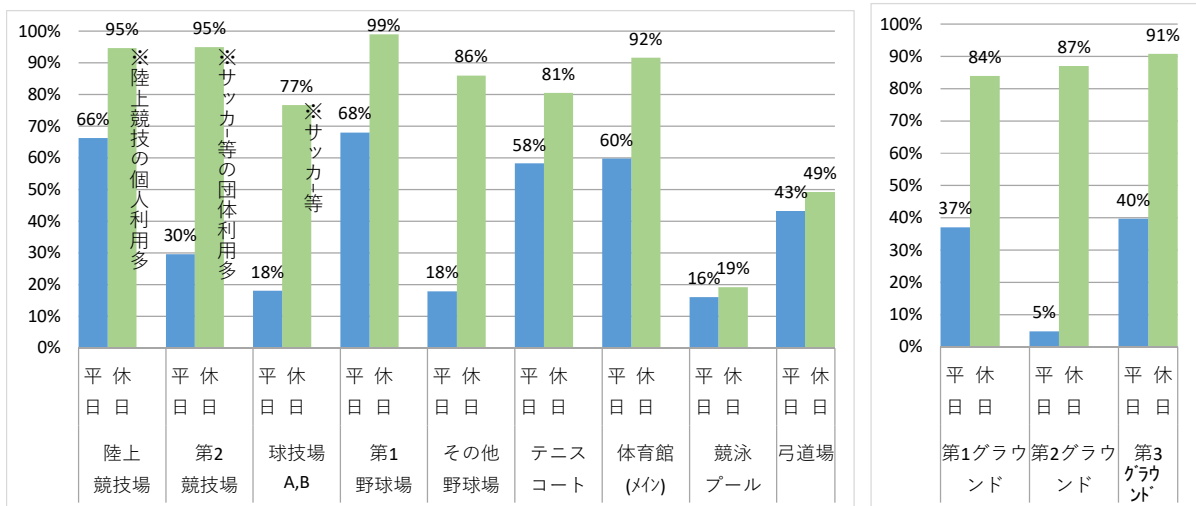
東部丘陵線に面する本公園南側区域と北側区域を機能連結して一体性を確保するとともに、広域利用者に地域の魅力を発信し、賑わいや地域振興に寄与する公園を目指します。



出典：平成 30 年度指定管理者業務報告書
 図 II-10 木津川運動公園(南側区域)利用者の居住圏域 山城総合運動公園利用者の居住圏域

(7) 公園の需給状況を踏まえた方向性

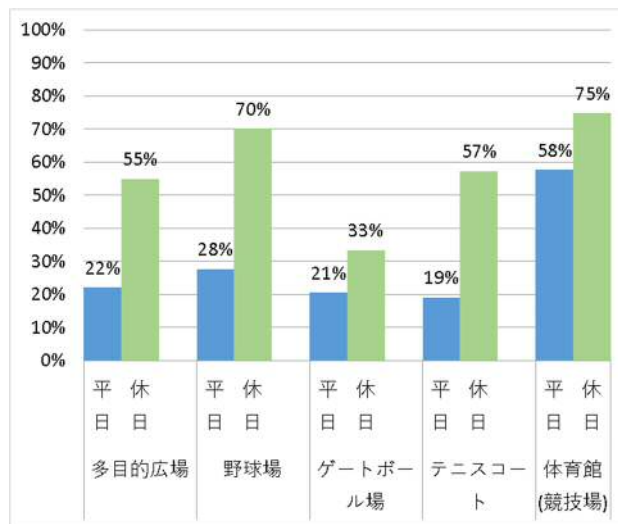
周辺公園の需給状況として、府立公園に求められる高いスポーツレベルの大会は、毎年 11 月に他の府内施設を含めて年間利用調整がなされており、定例の記録会や公認大会は開催できています。府立公園の休日の稼働率は、陸上競技場、球技場、野球場、体育館等で特に高い状況です。一方で、府立公園の平日の稼働率は、20～60%台となっており、平日休日の稼働率の差が大きくなっています。



出典：「平成 30 年度指定管理者業務報告書」
 図 II-11 府立山城総合運動公園の施設稼働率 府民スポーツ広場の稼働率

城陽市総合運動公園の休日の稼働率は、野球場、体育館（競技場）で 70% 台となっています。体育館（競技場）及び多目的広場は、ナイター設備があり、平日の夜間利用が見込めるため、平日と休日の稼働率の差が比較的小さくなっています。

城陽市総合運動公園では、令和元年6月に、全天候型アウトドア施設（ロゴスランド）が同公園敷地内にオープンしています。



出典：「平成30年度城陽市資料」

図 II-12 城陽市総合運動公園の施設稼働率

本公園周辺は、運動施設が多数ありますが、特定の運動施設に限っては需要過多な状況ではなく、高いスポーツレベルの大会も開催できており需要ニーズに応えることができます。

一方で、休日における周辺施設の稼働率は高いものの、平日と休日の稼働率の差が大きい状況となっています。

これらのことから、公園の需給状況を踏まえた方向性として以下のとおりとします。

【公園の需給状況を踏まえた方向性】

平日の利用促進を図れる個人や少人数で利用可能な運動施設、夜間利用が可能な運動施設等により、周辺の既存の運動公園と機能分担による差別化を図り、これまで公園を利用していない人々などの新たな需要を喚起し、相乗効果を促します。

(8) 城陽山砂利採取跡地の自然再生と緑の活用の方向性

現計画である「木津川右岸運動公園(仮称)整備計画策定に向けた提言」において、「山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園」があり、引き続き山砂利採取跡地の緑の回復は求められています。

一方で、北側区域の西側には、貴重な既存林が広がっており、これらを踏まえた方向性を以下のとおりとします。

【城陽山砂利採取跡地の自然再生の方向性】

山砂利採取跡地の自然再生による**緑豊かな公園**、既存の**緑を保全し活用した公園**を目指します。



(左：北側区域中央部、右：北側区域西側の既存林)

図 II-13 現在の北側区域の状況

(9) WITH・POST コロナ社会に求められる公園機能

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大は、社会生活に大きな影響を及ぼしていますが、一方で、コロナ禍で多くの人々が身近な公園を訪れ、改めてオープンスペースを有する公園の必要性が再認識されました。

「WITH コロナ（コロナウイルスとの共存を目指す社会のあり方）」「POST コロナ（コロナ禍以降に様変わりした社会のあり方）」時代の突入を契機とし、働き方改革により既に進められていたテレワークが加速し、時間に制約されない生活が浸透していく中で、公園のテレワークによる平日利用や会議・研修などの企業による公園利用も進むことも考えられます。

そのため、WITH・POST コロナ社会における方向性として、以下のとおりとします。

【様々な都市課題を踏まえた方向性】

施設の事前予約制やSNSでの情報発信等による**混雑度の管理**を図ります。また、平日利用の促進にも繋がる企業による**会議・研修やテレワーク利用等、新たな利活用**が図られる公園を目指します。

また、基礎体力を向上し免疫力を高める運動に気軽に取り組める公園を目指します。



(左：府立木津川運動公園、右：府立関西文化学術研究都市記念公園)
図 II-14 コロナ禍における公園利用状況（令和 2 年 4 月 25 日(土)）

(10) 方向性の実現化施策・ツール

ア 民間企業との連携（官民連携）

経済成長、人口増加等を背景とした緑とオープンスペースの量的整備から、社会が成熟化し市民の価値観も多様化する中、都市基盤も一定程度整備されたステージにおいて、緑とオープンスペースのポテンシャルを最大限活用していくための施策に移行すべきとされています。（「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会最終報告書」（国土交通省都市局公園緑地・景観課、平成 28 年 5 月））この中で、重視すべき観点として、「ストック効果をより高める」、「民との連携を加速する」、「都市公園を一層柔軟に使いこなす」とされています。

新たなステージでの都市公園の再生・活性化を推進するため、平成 29 年に都市公園法が改正され、民間活力による新たな整備手法の創設等が行なわれました。

近年では、全国の多くの都市公園において民間活力を用いた官民連携事業による公園整備が進められており、公園整備における実現施策・ツールは、以下のとおりとします。

【民間企業と連携した整備】

積極的な民間活力の導入により、質の高いサービスの提供、整備・運営の効率化を目指します。

イ 新技術の導入

ICT（情報通信技術）等の新技術を活用した次世代の公園づくりを行なうことで、公園の魅力や利便性の向上、情報発信による利用促進を図り、併せて公園のスマート化や運営維持管理（マネジメント）の効率化による持続可能な公園マネジメントの推進が可能となります。

例えば、IoT（モノのインターネット）と運動が連動した健康づくり、AR（拡張現実感）を活用したアミューズメント施設、パーソナルモビリティやキャッシュレス化等による公園運営のスマート化、AI（人工知能）による利用者案内などが考えられます。しかしながら、情報技術のハードを用いた公園づくりでは、システムの陳腐化のスピードが早いことに留意する必要があります。

京都市域から関西文化学術研究都市にかけては、多様な企業や、産業支援機関、大学・研究施設が数多く集積おり、先端研究やスマートシティへの取組みが進められています。これら企業や大学等と多様な連携を行なうことで、持続可能な取組みが可能となり、公園整備における実現施策・ツールは、以下のとおりとします。

【新しい情報技術等の活用、大学や企業との連携】

ICT等の新技術（IoT、AI、AR等）を活用した**公園施設の魅力向上や情報発信による利用促進**を図り、併せて**公園全体のスマート化や運営維持管理（マネジメント）の効率化**による持続可能な公園マネジメントを目指します。

また、官民連携による施設導入や、公園施設やオープンスペースにおけるフィールド実験など、大学や企業等との多様な連携により、次世代の公園を目指します

ウ 活動団体との連携

南側区域では、山城地域の里山風景の再生を目指し、平成18年度より森づくりのボランティア活動を開始しています。現在の会員は約50人で、月5～6回程度の活動（苗木育成、植樹、植栽管理、環境学習等）を実施しています。令和元年9月までに約1万本を植樹（内、平成30年度植樹418本）しました。

そのため、公園整備における実現施策・ツールは、以下のとおりとします。

【活動団体との連携に関する方向性】

民間事業者（北側区域の官民連携）と市民・ボランティア団体等との連携により、**山砂利採取跡地の自然再生**（園路等の京都府管理区域における植樹・育樹管理等）を目指します。

表Ⅱ-1 木津川運動公園（南側区域）平成30年度 再生の森づくり活動人数

出典：「平成30年度指定管理者業務報告書」

	活動人数	割合
職員	93人	8.4%
森守	664人	59.7%
一般	355人	31.9%
合計	1,112人	100.0%



出典：木津川運動公園ホームページ

図Ⅱ-15 再生の森づくり活動状況

2 北側区域の新たな整備方針

これまで検討してきた方向性や課題を整理し、北側区域の新たな整備方針を以下のとおりとします。

(1) 目指すべき姿

『自然と共生した都市公園において、幅広い人々が“運動”“体験”“交流”を通して心と体の健康や活力を実感し、新たな高速道路ネットワークによる効果を最大限に引き出す魅力溢れる空間を創出する。』

(2) 方向性

- 子育て支援、健康長寿、働き方改革（健康づくり）、多様性を認め合う共生社会の形成などの都市課題に対応する公園
 - 新名神高速道路のスマートインターチェンジやアウトレットモールに近接する地理的優位性を活かした、賑わいや地域振興に資する公園
 - 新たな需要を喚起できるオンリーワンの魅力に溢れ、周辺環境に相乗効果を生み出す公園
 - 緑が充実し、緑を活かした公園
（山砂利採取跡地であった東部丘陵地の自然再生）
- + α : WITH・POSTコロナ社会に求められる機能を有する公園

(3) 実現化施策・ツール

- 積極的な民間活力の導入により、質の高いサービスの提供、整備運営の効率化を目指す
- IoT、AI、VR等の新技術の導入
- 府民、NPO、大学、地元企業等との地域連携

Ⅲ 北側区域のサウンディング型市場調査及び府民アイデア募集結果

1 木津川運動公園（北側区域）整備事業の魅力向上に向けたサウンディング型市場調査結果について

本調査は、事業発案段階として、民間事業者との対話を通じて木津川運動公園（北側区域）の官民連携事業に関する事業アイデアや実施に際して課題等の意見をヒアリングし、事業検討の資料としていくことを目的に実施しました。

参加事業者は 17 グループとなり、その参加事業者（代表企業等）と、提案された主な活用アイデアは以下のとおりです。

表 III-1 応募事業者

参加事業者（代表企業等）	17グループ
(株)浅沼組、NSシェアードサービス(株)、(株)クリーン工房、(株)薫風舎、京阪園芸(株)、(一社)城陽市観光協会、(株)スターツ総合研究所、(株)スノーピーク、(公財)青少年野外活動総合センター、西武造園(株)、大和リース(株)、(株)初亀、(株)バンダイナムコアミューズメント、(株)冒険の森、(株)ポーネルンド、ミズノ(株)、他1者	

表 III-2 提案された主な活用アイデア

公園整備の視点	民間事業者のアイデア
子育て支援	子どもの遊び場（全天候型含む）、遊具、森の幼稚園、農業体験 等
健康長寿	フィットネス+ドッグラン+動物介在療法、デイサービスの場 等
賑わいや地域振興	アトラクション、アミューズメント施設、スポーツ・子育て・健康系アミューズメント、野外ライブ会場、ファーマーズマーケット、テーマパーク、温浴施設、レストラン、カフェ 等
緑を活かした公園	キャンプ場、グランピング、バーベキュー場、森を活用したアミューズメント施設、ドッグラン、アスレチック、ジップライン、地形を活かした花修景、広場、景観形成、ライトアップ、しだれ梅の梅林やコーヒー植樹、自然体験、自然再生 等
IoT、AI、VR	高齢者の新しいモビリティの練習場、ドローンスクール、ITベンチャーの新技术導入の場 等
働き方改革 （健康づくり）	野球場、ラグビー場、屋根付運動場、（インドア）テニスコート、フットサルコート、ランニングステーション、フィットネス、パラスポーツ、CAMPING OFFICE（テレワーク、会議、企業研修）、企業向けセミナー・会議+動物介在 等

2 木津川運動公園（北側区域）整備事業の魅力向上に向けた府民アイデア募集アンケート結果について

アンケートによるアイデア募集の結果、府民の皆さまから合計 39 件のご意見を頂きました。頂いたアイデアは以下のとおりでした。

表 III-3 公園テーマ別のアイデア

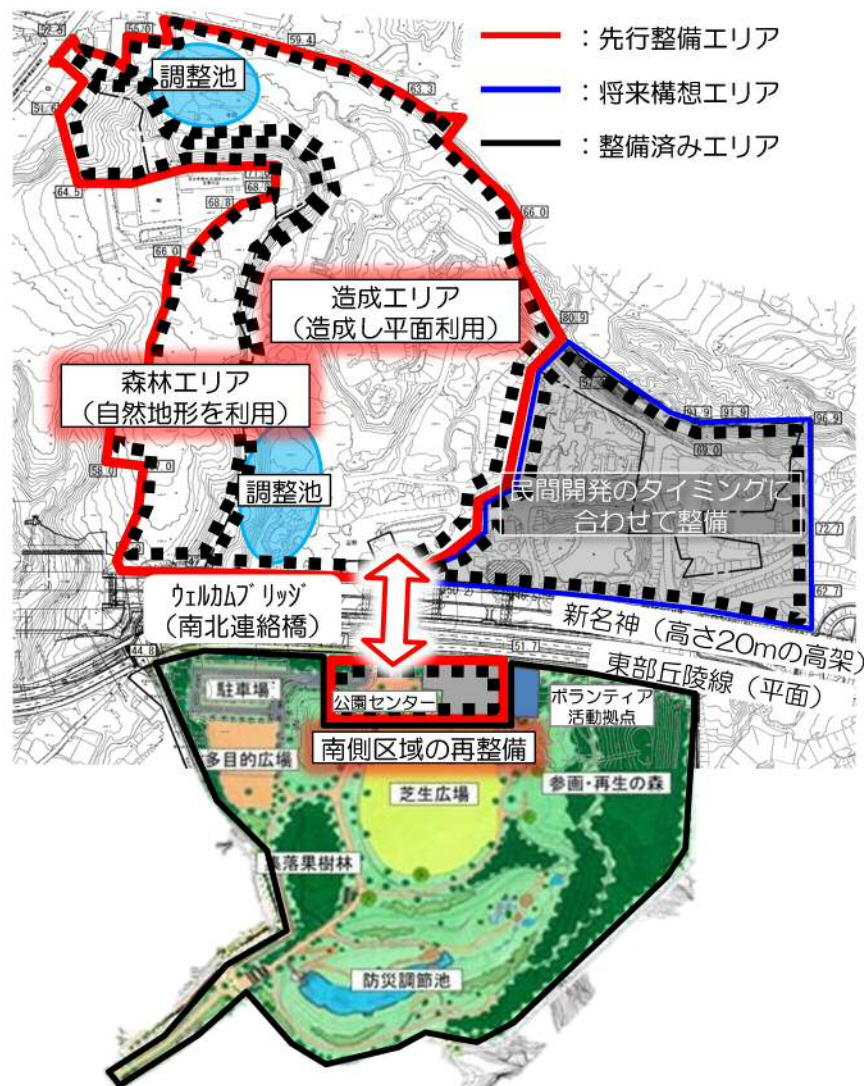
公園のテーマ	公園の施設、活動やイベントのアイデア
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールプール、滑り台、ジャングルジムのな立体施設 ・子供の楽しめる空間や施設 ・子育てに役立つ勉強の施設 ・ヒーローものなど子供向けのイベント ・地域の自然、農業、食を未就学児が体験できる施設 ・子供が外で思いっきり遊具と真剣に向き合って遊べるもの ・障がいのある子供も一緒に遊べる遊具の整備 ・小学生の水害や土砂災害の防災体験ができる社会学習施設
健康づくり・運動	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が健康増進のために大声で叫べる場所 ・ドッグラン、ペットの公園、自然豊かで、ペットの散歩等が可能な広いエリア ・高齢者向けのゲートボール場 ・高齢者の運動になるボルダリング施設 ・グラウンドゴルフ場 ・クロスカントリーコース、ジョギングコース ・健康遊具のあるウォーキング、ランニングコース ・健康テーマパーク施設
スポーツ振興	<ul style="list-style-type: none"> ・フットサルコート ・ボール遊びができるゾーン ・有料のジップラインやアウトドア施設 ・正式なサッカーコート機能を有する多目的芝生広場 ・スケートボードコース ・木津川サイクリングロードへ繋がる自転車道
賑わいや地域振興	<ul style="list-style-type: none"> ・巨大なウォータースライダーを有するプール ・子供と遊べる小規模なモーターレーシングコース ・気球に乗れる、ヘリポート施設 ・国内の唯一無二のアトラクション施設 ・新名神の橋脚を利用したアトラクション施設 ・伊勢のおかげ横丁のような賑わい施設 ・宿泊、温浴、レジャー施設 ・野外音楽堂施設
緑地再生などの環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・森の木を残し、森林浴が可能な公園 ・散策路や四阿 ・里山づくり、森の再生、既存林の保全 ・竹林を活かした体験プログラム、自然体験 ・観光者向けの里地里山の生活体験プログラム ・植物園施設 ・敷地内の大量の砂を利用した、砂まつりの開催や砂場 ・豊富な地下水を利用したボート、カヌー等の水上遊園 ・自然のアスレチック ・南側区域と北側区域の間に、野生動物の専用通路の設置
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ、BBQ、温浴、グランピング ・災害時避難場所、避難訓練 ・府立医大附属病院の設置 ・農業栽培、体験を通じた持続可能な環境施設 ・温浴施設や簡易宿泊施設 ・府道山城総合運動公園城陽線側出入口から市道東部丘陵線側出入口への通り抜け禁止

IV 公園整備エリアと導入機能

1 整備エリア

北側区域の内、用地取得が進んでいる西側部分を「先行整備エリア」とします。合わせて、東部丘陵線に面する南側区域の公園センター部分、北側区域と南側区域を接続し一体化を図る南北連絡橋を「先行整備エリア」とします。将来的に民間開発のタイミングに合わせて整備を行う北側区域の東側部分を「将来構想エリア」とします。

北側区域の「先行整備エリア」は、山砂利採取跡地であった部分は造成を行って平面利用する「造成エリア」、既存林が残る部分は自然地形を利用する「森林エリア」とします。南側区域の公園センター及び大型車駐車を「南側区域の再整備エリア」とします。



図IV-1 整備エリア

2 導入機能の考え方

木津川運動公園に導入する機能については、北側区域の新たな整備方針、サウンディング型市場調査及び府民アイデア募集結果を踏まえ、東部丘陵地の中間エリア（センターゾーン）等の開発状況に合わせた柔軟な対応を念頭に、新たなまちづくりが進められつつある東部丘陵地の玄関口として、周辺環境や地域と連携し相乗効果を生み出す公園を目指して策定します。

また、新名神高速道路や都市計画道路東部丘陵線からの眺望も考慮し、ランドマーク施設を配置します。

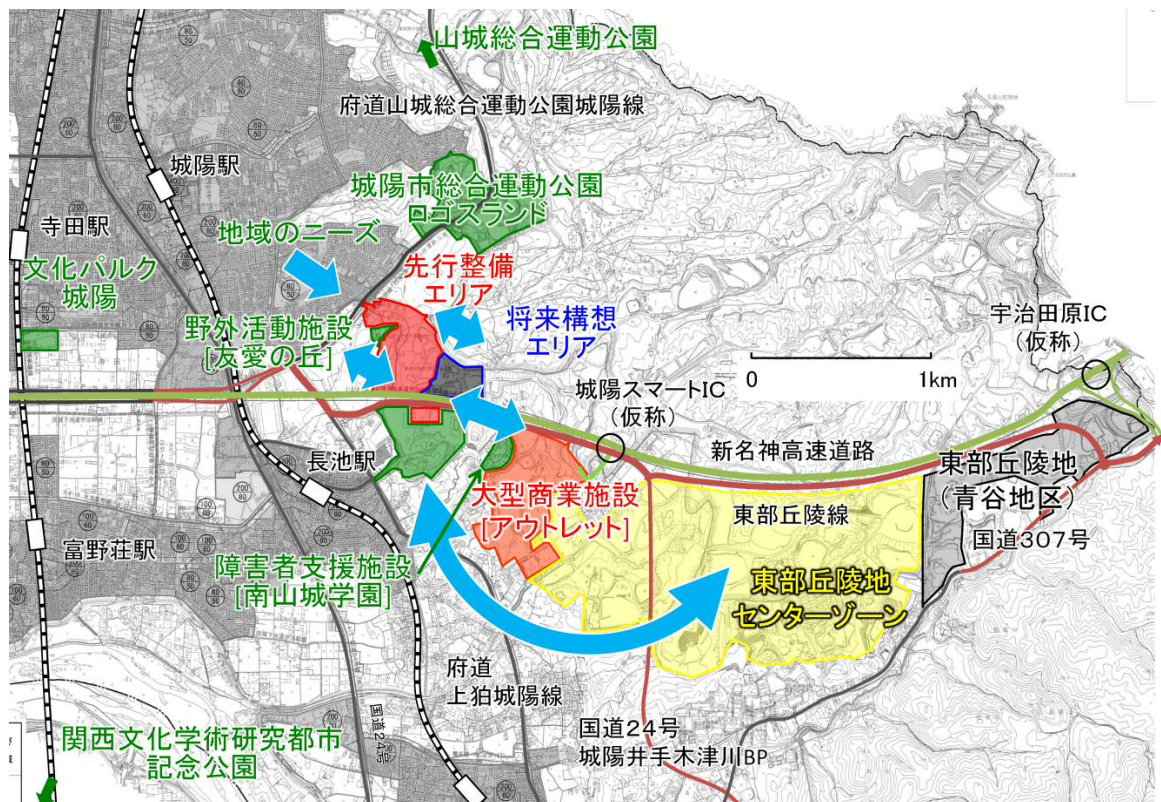


図 IV-2 木津川運動公園と周辺施設

3 基本機能（必須設置）と追加機能（民間提案）の設定

導入機能を、必ず設置すべき機能（施設）と民間事業者からの提案を期待する機能（施設）に分類します。

公園の目指すべき姿、方向性を実現していくための核となる機能（施設）を基本機能（必須設置）、民間事業者の提案により本公園の魅力や利便性を一層向上機能（施設）を追加機能（民間提案）とします。

4 北側区域及び南側区域の導入機能

(1) 先行整備エリア

ア 子育て支援・賑わい・地域振興機能

小さな子供が安心して楽しく遊べる施設、子供の読書や学習などの文化活動の場、子育て世代のサポートやコミュニティの創出等により、子育てを支援する機能

【基本機能（必須設置）】

子どもの楽園（大規模屋根付広場、芝生広場・遊具、休憩所）

【追加機能（民間提案）の例】

有料遊具、室内遊戯施設、図書・研修室、職業体験 等

公園の魅力向上をさせる収益施設等により、公園の賑わい創出と広域利用者に地域の魅力を発信する機能

【基本機能（必須設置）】

ウェルカムブリッジ（南北連絡橋）と一体となったレストラン・カフェ・地域物産館、イベントスペース

【追加機能（民間提案）の例】

野外劇場、アミューズメント施設、ARアトラクション 等

【例えば】

- ・強い日差しや雨天時でも遊びやイベントが可能な大規模テント広場
- ・子育て世代のサポートやコミュニティの場を併設した屋内遊戯施設
- ・地域食材の魅力発信する公園の景観を活かした飲食施設
- ・公園の賑わいを創出するアミューズメント・アクティビティ施設

イメージ



大阪城公園

イメージ



国営武蔵丘陵森林公園

イメージ



提供：万博 BEAST

施設イメージ例（連絡橋と一体となった飲食施設、大規模屋根付広場、アスレチックタワー）

—（下線）：ランドマーク

イ 健康づくり・健康長寿機能

誰もがいつでも気軽に運動やスポーツを楽しむことができる運動施設等により、心身の健康づくりや生涯現役を目指した健康長寿を支援する機能

【基本機能（必須施設）】

ウォーキング・ランニングコース、サイクリングステーション
（茶いくる関連）

【追加機能（民間提案）の例】

フィットネスジム、ランニングステーション、球技場 等

【例えば】

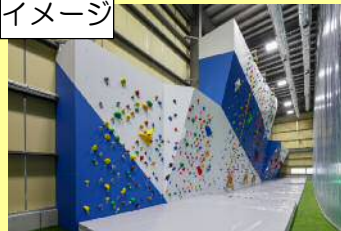
- 企業や大学等と連携し情報技術(AI、IoT)を活用した新しい運動施設
- アスリートやインストラクターによる運動指導や、子供向け運動教室
- 障がいのある人もない人も一緒になって活動・交流できる運動施設
- 公園の景観と広場を活用した運動施設
- 広い空間を活かした文化イベントの開催が可能な屋外運動施設

イメージ



提供：NSシェアードサービス（株）

イメージ



提供：ミスノフットサルプラザ和田岬

イメージ



別所沼公園

施設イメージ例（運動教室、屋内運動施設、ランニングコース）

ウ 自然体験・学習機能

街中にはない自然や緑を活かした体験型施設等により、子供の心身の健全な発達を促すと共に、自然との共生を実感できる幅広い世代のアウトドアの活動の場を提供する機能

【基本機能（必須設置）】

緑地、植栽、既存林の保全と自然体験

【追加機能（民間提案）の例】

キャンプ、バーベキュー場、ジップライン、花修景、農業体験等

【例えば】

- 心身の健康づくりに寄与する既存林を活かしたアクティビティ
- 非日常を体験をできる自然とのふれあいや農業体験
- 公園の個性を表現し魅力を向上させる花修景
- 野外での交流を図るキャンプやバーベキュー等のアウトドアレジャー

イメージ



国営ひたち海浜公園

イメージ



提供：(株)初亀

イメージ



提供：京阪園芸(株)

施設イメージ例（活動拠点となる古民家、バーベキュー、花修景）

エ 新しい生活スタイルの支援機能

働き方改革や WITH コロナ等に対応した、勤務時間や場所に左右されない新しいワークスタイルや、オフィススタイル等を支援する機能

【追加機能（民間提案）の例】

サテライトオフィス（テレワーク、会議、企業研修） 等

【例えば】

- テレワークに対応する Wi-Fi などのアクセススポット
- 緑の中での会議や研修の場

イメージ



提供：(株)スノーピーク

施設イメージ例（CAMPING OFFICE）

(2) 将来構想エリア

オ 先行整備エリアを補完する機能

民間開発のタイミングに合わせた整備により、先行整備エリアの機能を補完し、相乗効果により公園の魅力を上昇させる機能を誘導する

【例えば】

- ・公園及び周辺商業施設と連携した温浴機能、宿泊機能
- ・ニーズの変化に対応した運動施設

(3) 整備済みエリア（南側区域）

カ 生涯スポーツ・レクリエーション機能

府民の健康増進、多様なレクリエーション活動を通じての余暇活動の充実・交流活動の促進や創出等を目指す。大芝生広場でのインパクトある空間を形成し、来園者が自由にくつろげる魅力ある空間づくり

- ・大芝生広場
- ・遊具、多目的広場

キ 学習の森（ビオトープ）

調整池の多機能利用を積極的に目指し、修景池として美しい水辺景観を創出し、憩いの空間とするとともにビオトープとして自然環境の修復を図る。府民との協働による自然生態環境の修復活動を通じて、環境学習プログラムを展開し、学習の森を整備

- ・修景池、流れ
- ・学習の森等

5 先行整備エリアの導入機能のまとめ

先行整備エリアの「基本機能（必須設置）」と「追加機能（民間提案）」の例を以下に示します。

表IV-1 基本機能（必須設置）と追加機能（民間提案）の例

基本機能 〔必須設置〕	子育て支援	子供の楽園（ <u>大規模屋根付広場</u> 、芝生広場・遊具、休憩所）
	賑わい 地域振興	<u>ウェルカムブリッジ（南北連絡橋）と一体となったレストラン・カフェ・地域物産館、イベントスペース</u>
	健康長寿 健康づくり	ウォーキング・ランニングコース、サイクリングステーション（茶いくる関連）
	自然再生 緑の活用	緑地、 <u>植栽</u> 、既存林の保全と自然体験
追加機能 〔民間提案〕	民間事業者からの提案を期待するものの例	
	子育て支援	有料遊具、室内遊戯施設、図書・研修室、職業体験 等
	賑わい 地域振興	コンビニエンスストア、美術館、屋外劇場、梅園、アミューズメント施設、ARアトラクション 等
	健康長寿 健康づくり	フィットネスジム、ランニングステーション、球技場（野球、テニス、フットサル） 等
	自然再生 緑の活用	グランピング、キャンプ、バーベキュー場、ジップライン、花修景、ペットカフェ、ドッグラン サテライトオフィス(テレワーク、会議、企業研修) 農業体験 等

—（下線）：ランドマーク

5 基本機能配置例（参考イメージ）

(1) 子育て支援

遊び場 学び場 + イベント → 子育て支援 日本一

①施設

- ・大規模屋根付広場(人工芝)
- ・芝生広場・遊具・休憩所

②利用

- ・小さな子供の安心・安全な遊び
- ・大規模テント広場での様々なイベント

写真はイメージ



屋根付運動広場
(国営武蔵丘陵森林公園)



大型遊具
(広町みらい公園)

(2) 賑わい・地域振興

飲食・物販 + 南北区域 連結 → 地域振興

①施設

- ・フェルカムブリッジ(南北連絡橋)及び一体となったレストラン・カフェ・地域物産館、イベントスペース

②利用

- ・農家や地域と連携した地域食材や物産の魅力発信
- ・広域利用者を取り込む滞在型観光

写真はイメージ



連絡橋と一体となった飲食施設
(大阪城公園)



カフェレストラン
(南池袋公園)

(3) 健康長寿・健康づくり

運動 + 公園・緑 → 健康づくり 健康長寿

①施設

- ・南北区域が一体となったカーニング・ランニングコース
- ・サイクリングステーション(茶いぐるみ園連)

②利用

- ・公園の起伏や緑を活かしたカーニング・ランニング
- ・茶いぐるみラン等利用者の休憩ポイント、発着拠点

写真はイメージ



カーニング・ランニングコース
(国営武蔵丘陵森林公園)



サイクリングステーション
(道の駅お茶の京都 みなみやましろ村)

(4) 自然再生・緑の活用

自然生活文化 + 自由遊び 体験 → 自然・緑の活用

①施設

- ・既存林、竹林を活かした里山、田畑・小川整備
- ・活動拠点となる古民家復元(解体予定物件を公募)

②利用

- ・里山における自然体験(虫取り、木登り、落葉遊び等)
- ・山砂利採取跡地の自然再生

写真はイメージ



活動拠点となる古民家
(国営ひたち海浜公園)



自然体験
提供：(公財)青少年
野外活動総合センター

